

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童福祉諸費

事業名 重症心身障がい児者いきがい創出支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 電話番号：058-272-1111(内3282)

障がい児者医療推進係 E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,100 千円 (前年度予算額： 3,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,500	1,750	0	0	0	0	0	0	1,750
要求額	3,100	1,550	0	0	0	0	0	0	1,550
決定額	3,100	1,550	0	0	0	0	0	0	1,550

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行うことにより、地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援し、運動機能の低下防止と情緒の安定、家庭における介護者のリフレッシュを図り、重症心身障がい児者の福祉の増進を図る。

なお、令和5年度から令和7年度までの間に、委託事業者において各事業メニューの自主事業化を図ることとする。

(2) 事業内容

○事業メニュー

①社会参加促進事業

文化的活動やレクリエーション活動に参加することにより、いきがいの高揚や情緒の安定を図る。

(例) 地域でのコンサートや人形劇等の開催
文化施設等への日帰り旅行や社会見学の実施

②家庭リフレッシュ事業

専門の介助者を伴った外出宿泊を行うことで、社会体験を拓げるとともに、保護者の心身のリフレッシュを図る。

(例) 文化観光施設等への体験旅行の実施

③地域交流事業

地域住民との交流の機会を設けることにより、在宅生活における孤独感の解消を図るとともに、障がい者に対する地域の理解を促す。

(例) 地域の各種行事への参加支援
地域住民との交流イベントの開催

④健康管理促進事業

健康不安に対する医学的相談や機能訓練の指導を行うことで、健康の維持増進と、自立意欲の向上を図る。

(例) 専門訓練士によるリハビリ相談会の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

国1/2、県1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	3,100	社会福祉法人等への委託料
合計	3,100	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行うことにより、地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援し、運動機能の低下防止と情緒の安定、家庭における介護者のリフレッシュを図り、重症心身障がい児者の福祉の増進を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H14)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
実施主体		4	4	4	4	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 4団体に事業委託し、在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいたメニュー事業を提供した。3団体が健康管理促進事業により延べ303人に、1団体が社会参加促進事業により延べ146人にそれぞれ支援を行った。
	指標① 目標：4 実績：4 達成率：100%
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 4団体に事業委託し、在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいたメニュー事業を提供した。4団体が健康管理促進事業により延べ443人に、3団体が社会参加促進事業により延べ220人に、1団体が地域交流事業により延べ150人にそれぞれ支援を行った。
	指標① 目標：4 実績：4 達成率：100%
令和5年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	在宅の重症心身障がい児者及び介護者は、日頃の療養や介護により外出の機会が極めて限られており、重症心身障害児者の運動機能等の低下防止や情緒の安定、あわせて介護者のリフレッシュを図る本事業は極めて重要である。前年度はコロナ禍による事業自粛のため参加者が減少したが、感染不安解消後の利用増が見込まれる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	令和4年度はコロナ禍が終息の方向に進む中、813人の利用があり、令和3年度(449人)と比較して364人の利用者増であることからして、在宅の重症心身障がい児者及び介護者の本事業に対するニーズに答えているといえる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	より多くの重症心身障がい児者及び介護者が、地域社会の中でうるおいのある生活を送ることができるよう、事業の実施方法の効率化を図る。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・令和7年度事業終期につき、委託事業者が自主事業に円滑に転換していくよう指導を継続していく必要がある。

(次年度の方向性)

・令和7年度終期である旨、各委託事業者には令和4年度中に通知済みであり、徐々に自主事業化に向けて事業内容を見直していくよう、受益者である障がい児者とその家族の理解が得られるよう各事業者に対して促していく。
--